

GOVERNOR'S

Rotary
District2530

イマジン
ロータリー

MONTHLY LETTER 5

Rotary International District 2530 Vol.11

ガバナー月信 2023年 / 5月号

2023



喜多方市 三ノ倉高原菜の花畑

CONTENTS ガバナー月信 2023年5月号

ガバナーメッセージ.....	2	第7回諮問委員会	5	トルコ・シリア大地震支援金の報告 (ガバナー会) ...	11
2023-24年度派遣 第3回青少年交換 派遣学生オリエンテーション開催報告...	3	多地区合同青少年交換スプリングキャンプ参加報告...	6	マスコミトップインタビュー.....	12
第2回研修委員会セミナー開催報告...	3	中央分区 盲導犬育成支援プロジェクト...	7	新会員紹介.....	14
相双分区 IM 開催報告	4	第5期 RLI 卒後コース開催報告	8	3月会員数報告	15
DEI委員会セミナー開催報告	4	第41回 RYLA 研修会開催報告	9	県南分区 IM 開催報告	16
指名委員会開催報告.....	5	いわき平中央RC会員増強の取り組み	10	職業奉仕委員会.....	16
		富岡 RC 会員増強の取り組み	10	公共イメージQRコード.....	16

国際ロータリー第2530地区 2022-23年度 ガバナー 佐藤正道

ガバナー事務所 〒966-0092 福島県喜多方市字清水台2-92 (南)中野商店2F
TEL: 0241-23-6016 FAX: 0241-23-6026 E-mail: 22-23sato@ri2530.com

地区事務所 〒963-8831 福島県郡山市七ツ池町 26-3
TEL: 024-954-6755 FAX: 024-954-6615 E-mail: chikujimusyo@ri2530.com

ガバナーメッセージ



国際ロータリー第 2530 地区
2022-23 年度ガバナー

佐藤 正道
(喜多方RC)

今年度も残すところあと2か月となりましたが、まだ地区行事、全国行事や国際大会等が残っており、年度末まで週末は予定が埋まっている状況です。最後の追い込みに奔走しているクラブ、次年度関連行事に突入して今年度終了モードになっているクラブ等様々かと思えます。ところで、年度当初に掲げた目標は達成できたでしょうか。ここで、マイロータリーのクラブセントラルの目標達成状況をみてみたいと思います。右下の表をご覧ください。目標達成したクラブが16クラブあるのに対して、中央分区、県北第一・第二分区以外の6分区には、目標設定を入力されていないクラブが18クラブもあります。目標設定はしているものの、検証をされていないクラブが、半数近くの29クラブです。一年を振り返り、次年度へ引継ぎするためにも、必ず確認をしていただきたいと思えます。また、まだ入力されていないクラブにとっても、今年度を検証するいい機会ですので目標と達成を入力してください。13項目を達成するとロータリー賞が授与されますので、クラブにとっても励みになると思えます。

さて、ジェニファー・ジョーンズ会長が会員維持のために前面に示されたDEIですが、当地区ではこの方針に基づいて行動できたのでしょうか。会員維持レポートを見ますと、既存会員の維持率は、過去4年間はおおよそ90%弱だったのに対して、今年度は今のところ94.6%、また同様に新会員の維持率も97.7%で最高の数値となっています。DEIはよくわからないと言われていたわりには、それぞれのク

ラブが会員を歓迎し満足度を高めたことにより、インクルーシブなクラブ環境を構築することが出来たのではないのでしょうか。残り2か月この状況を維持されることを祈っています。

ロータリーファミリーにインターアクトクラブがありますが、学生がインターアクターでいられるのは3年間、中学校から加入すれば最長で6年間で、有期の構成員であるために、どれだけ多くのインターアクターを有意義に育成するかが問われます。それを考えると、私たちが青少年と向き合うためには、如何に密接で効果的ななかかわり合いが必要かを求められます。さらにはその先のローターアクター、ロータリアンへ導くことによって、有期から無期限のロータリー活動に関われる環境を提供することが出来ます。

今年度ロータリーファミリーのネットワークを構築するために、学友委員会を設けましたが、青少年の個人情報保護の観点から、情報を共有することが難しい状況になっています。しかし、将来の有望なロータリアンを育てるために、コンプライアンスを遵守した管理をすることによって情報共有することは可能だと思えます。青少年奉仕月間にあたり、課題克服の糸口を探ってみました。

クラブセントラル目標達成状況

分区	未設定	未達成	達成	計
中央		5	5	10
県北第一		3	4	7
会津	4	6		10
いわき	6	3		9
県北第二		3	4	7
県南	2	6		8
相双	4	1	1	6
県中	2	2	2	6
計	18	29	16	63

2023-24年度派遣 第3回青少年交換派遣学生オリエンテーション開催報告 2月25日



青少年交換委員会
委員長 原 田 康 博
(いわき平東RC)

去る、2月25日午前10時より郡山市富田西ふれあいセンターにて開催いたしました。出席者は早川啓介ガバナーノミニ、大木和彦青少年奉仕委員会委員長、原田青少年交換委員長、細川正司委員、松永雄一委員、瀬野勝治喜多方RC副会長、ROTEXの鈴木奈々江さん、久保木彩歌さん、只野由香利さん、インバウンドの学生の、モリーとビッキー、派遣候補生5名の参加者があり、まずは本日の目的であります、留学時にホストファミリーにご馳走するための料理を考えながらの材料調達、そしてROTEXのお姉様たちの手伝いを得ながら調理実習をしてもらいました。インバウンドの学生はブリトーとチョコ入りクッキーで、派遣候補生たちは、お好み焼きと巻き寿司を完成させ、参加者全員で昼食としていただきました。おいしくできたのではないかと思います。

扱て、午後の部は3月に行われる東北多地区合同スプリングキャンプの最終日に行われる派遣学生としての決意表明とは、ということで昨年撮影された派遣学生たちの決意表明の全ての動画を見てもらいました。

決意表明とは留学した時に自分を紹介するための内容を作成し、それを現地語、もしくは英語で発表をすることなのです。厳しい批評を浴びながら、決意表明している動画を派遣学生達が緊張の面持ちで鑑賞し終えたところで、このスプリングキャンプは、遊びではなく、留学した時に学生たちが1年間無事に終えるために必要な最小限の研修をするための大切なキャンプなんですということを指導して終了いたしました。



第2回研修委員会セミナー開催報告 3月11日



研修委員会
委員長 石 黒 秀 司
(郡山RC)

去る3月11日(土)郡山市南東北総合卸センターにて第2回研修委員会セミナーを開催された。今回は、コロナ禍、大幅人口減社会の到来などロータリークラブを取り巻く環境が厳しい中で、クラブ強化を図る為のクラブリーダーシッププラン(CLP)について深堀し、魅力溢れるクラブ再生のキッカケを探る目的で、特に、クラブ会長エレクトや次期幹事を対象とした。

まず、3月11日は、私たち福島県民にとっては風化させてはいけない特別の日である為、全員で、東日本大震災で犠牲になられた皆様へ、鎮魂の祈りを捧げ、セミナーを開始した。まず、第一地域ロータリーコーディネーター補佐(2770地区パストガバナー)の中里公造氏より「CLPの見直しによるクラブ活性化」のテーマにて講演いただいた。会員数などの数字の把握ときめ細かな分析。CLPは、組織や事業の簡素化ではなく、クラブを長期的に発展させ、活性化を図る為の効果的な枠組み提供。CLPが

開発された経緯や問題点、更には、クラブ定款やクラブ細則見直しへの積極行動の話があった。次に、当地区の平井義郎パストガバナーより、「CLP」のテーマで講演いただいた。会員減少への懸念に私たちは、何をしてきたのか?の間掛けとともに、活力あるクラブにするための「クラブ細則見直し、会費見直し、会員の種類見直しなど」の事例の紹介があった。

講演のあと、クラブ会員数により6つのグループに分け、「CLP導入について、クラブの魅力アップについて、クラブ長期計画の必要性」について意見交換し、代表3名からディスカッションの発表をした。

今回のセミナーの成果は、それぞれの学び、気づきを如何に次の行動に繋げ、実績に繋げることだ。セミナーは、終了したが、私たちの行動は、これから、始まりだ。



相双分区IM開催報告 3月12日



相双分区ガバナー補佐
内海 金男
(原町中央RC)

2023年3月12日、相双分区6クラブのガバナー補佐として一年の中で、最大の行事であるIMの開催、コロナウイルスは留まる事を知らず苦慮している所ですがロータリーの皆様には、万全を排して頂き、今日の一日が思い出に残るIMにしたいと考えています。ロータリーは奉仕と利他の関係が大重要と考えています。知り合いを広め、奉仕の機会とする。職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値のあるものと認識し、社会に奉仕する機会として、職業を高潔なものとする。ロータリアン一人一人が、個人として事業及び社会生活において奉仕の理念を実践する。奉仕の理念で結ばれた職業人が世界的ネットワークを通じて国際理解、親善、平和を推進すること。この言葉を信じ邁進してまいります。

第1部は、新会員セミナーの実施、講師は相馬ロータリークラブの菊地満様をお願いしプロジェクターを使い画像を見ながら、ロータリーの歴史、目的、奉仕と親睦の融合性を話していただき和やかに閉会することができました。参加人数28名でした。

第2部は、IM開始でガバナーの開会点鐘で始まり、ホストクラブである原町中央RCの菅野会長の歓迎の言葉で始まり、佐藤正道ガバナーの挨拶、南相馬市長門馬和夫様のお祝いの言葉、その他県議会議員2名、商工会会頭の挨拶と続き、各クラブの会長様の奉仕の取り組みの発

表があり、次期IM開催クラブ(泉田征慶ノミニー)の挨拶があり閉会点鐘で終了、参加人数、91名です。

記念講演は、演題(輝く瞳に会いに行こう)

PC会長原田義之様で国際ロータリー(タイ北部)RI第3360地区チェンライRCに所属

北タイ、アカ族への奉仕活動を長年にわたり実施されてきた方で、それに賛同し原町中央RCでも、支援金を集めアカ族のトイレ設置事業に協力し3台目まで完成、今後も継続する予定です。アカ族の住むホイ、サンマイ村は百数十年前に中国からの迫害を逃れてタイ北部の山岳地に移り住み、アカ族は、今も国籍がないために教育が受けられず、タイ語が不自由な人が多いといひます。タイ語が話せない人は都市部での仕事に就けず、不安定な収入や貧困といった問題につながっています。この話を1時間ほどでまとめでいただいで、著書出版で内容を読んでください。

17:00より懇親会、ガバナーノミニー、デジグネートの泉田様に乾杯の挨拶をお願いし懇親会のスタートです。余興はシンガーソングライターの渡瀬あつ子さん、と湊清一さんです。どちらも南相馬市出身の歌手でIMの為にご参加を頂きました。早退者も殆どなく最後まで懇親を深めることができました。

今回のIMが大盛況に終わることが出来たのも会員の協力があればこそと思ひ感謝申し上げます。



DEI委員会セミナー開催報告 3月17日



DEI委員会
委員長 **高橋 金一**
(郡山西RC)

去る3月17日、ZOOMオンライン形式で、タイ国パタヤから佐藤正道ガバナーを始め、総勢80名を超える会員の参加を得て、「DEIなロータリー」と題して、DEI委員会セミナーを開催しました。

一般の会員の皆様には、「DEI」はなじみがないものなので、何がDEIなのかを、地区で考えるセミナーをやることとしました。

第1部の基礎研修では、マイロータリーのラーニングセンター所収の「多様性・公平さ・開放性への取り組み」を実際に体験して頂きました。当日、DEIに関するロータリーの教材を利用した経験を尋ねたところ、経験者は10人に満たず、殆どの参加者が初体験のようでした。この研修での体験が、マイロータリーに興味を持って頂き、DEIに関する理解を深めるきっかけとなれば、委員会としては望外の喜びです。

第2部のパネルディスカッションでは、パネラーとして、福島グローバルRCのチンタカ・クマラさん、同クラブの石井辰一さん、郡山西RACの鈴木春香さんに登場頂き

ました。チンタカさんはスリランカ出身で、石井さんは車椅子生活というハンディキャップを持っており、鈴木さんは若年の女性で、いずれもロータリー活動に積極的に取り組んでおられる方々です。DEIを考えるには正に適任のパネラーです。

それぞれのお立場から、DEIを考える上で、大変示唆に富むご意見を頂戴しました。残念乍ら、紙面の都合上詳細を紹介することはできません。

参加者の、齋藤純一職業奉仕委員長からの会場発言もあり、おかげさまをもちまして、有意義な研修となったと思ひました。

最後にDEIが会員増強拡大委員会に配されている理由についての考察を含めて、楽しいセミナーになったとの平井義郎パストガバナーによる講評を頂戴し、90分にわたるセミナーを無事終えることができました。

パネラーの皆様を始め、ご協力頂いた皆様、ありがとうございました。そして、ZOOMによるリモート開催の技術面での運営を快諾頂いた町田晃さんには、ほぼぶっつけ本番だったにも関わらず、スムーズな機材操作をして頂きました。心から感謝申し上げます。



指名委員会開催報告 3月25日



指名委員会
委員長 志賀利彦
(いわき小名浜RC)

3月25日11:00から郡山ビューホテルアネックスにて、指名委員会を開催いたしました。

代表議員に鈴木邦典パストガバナー、補欠議員に芳賀裕パストガバナー、指名委員に阿久津肇パストガバナー、中澤剛パストガバナー、大橋廣治パストガバナー、渡邊公平パストガバナー



代表議員
パストガバナー 鈴木 邦典
(白河RC)

一、酒井善盛パストガバナー、佐久間英一パストガバナー、平井義郎パストガバナー、志賀利彦直前ガバナーの8名です。

任期は2023年7月1日より3年間となります。

以上報告といたします。

第7回諮問委員会 3月25日



地区幹事
佐藤 日出夫
(喜多方RC)

2023年3月25日(土)12:00～14:30に、第7回諮問委員会が郡山ビューホテルアネックスにて開催されました。(諮問委員13名中12名が出席)

佐藤正道ガバナーのあいさつの後、下記報告事項の報告と諮問が行われました。

・報告事項

- 志賀指名委員会委員長より、代表議員及び補欠議員の選出報告
11時より開催されました指名委員会により、代表議員には鈴木邦典パストガバナーが、補欠議員には芳賀裕パストガバナーが選出されました。任期は2023年7月1日より3年間となります。
- 2022-23年度 地区中間決算報告
(中野博正地区資金委員長、佐藤日出夫地区幹事より報告)
- メルボルン国際大会について(右近ガバナーエレクトより)
目標の40名について現在の登録者は24名である旨の報告がありました。

- 2023 学年度奨学生採用について(平井パストガバナーより)

・諮問事項

- トルコ・シリア大地震への支援について
3月20日の締め切りを過ぎても善意が届いております。
3月23日時点では48クラブより2,792千円の支援金を頂いております。
ガバナー会を通して、支援金をお届け致します。
尚、ガバナーよりDDFより25,000ドルの災害救援基金を拠出したい旨の申入れがあり承認をいただきました。
- 2022-23年度地区大会決算報告について
(星富士雄地区大会実行委員長、中野博正地区資金委員長より)
- 2023-23年度地区賦課金並びに地区予算について
(森岡幸江次期地区資金委員長より)
- 2023-24年度地区研修協議会について
(坪井大雄次期地区幹事より)

以上、報告と致します。

多地区合同青少年交換スプリングキャンプ参加報告 3月24日



青少年交換委員会

委員 松 永 雄 一
(原町中央RC)

3月24日(金)いわき市から常磐道に乗った原田委員長に途中のSAでピックアップしてもらい、13時ちょっと前にスプリングキャンプの会場がある岩手県奥州市(旧・水沢市)に到着しました。

そしてRI2520地区の森川昭正GEによる歓迎の挨拶などの開会セレモニーがあり早速、派遣学生による派遣国言語での自己紹介が行われました。この段階ではみんなまだまだ自信なさげで頼りなく感じました。続いて徒歩で奥州市地域交流館「アスピーア」に移動してROTEXによる留学先での体験談などを披露してもらい、休憩後、派遣国別の班に分かれてそれぞれでインバウンドの学生(以下IBS)を講師として言語学習し、夕食が済んだ後も深夜まで学生たちは真剣に研修を受けていました。

3月25日(土)スプリングキャンプ第二日目

学生たちは朝食を済ませ昨日同様「アスピーア」に移動。RI2520地区松良千廣PDGによる「良き親善大使の条件とは」と言う講話とROTEXの大先輩(失礼)麻生菜穂国際奉仕委員長から留学生としての心構えを聞いて昼食、一息入れる為に奥州市が生んだ偉人の齊藤實記念館などを見学。その後、IBSからSNS用語等、今風の英語の使い方を受講、例えば「わからない」は「IDK(I don't know)」とか「(笑)」と表される言葉は「LOL(Laugh out load)」とか若者間の生きた会話を受講しました。筆者は中国語とスペイン語はわからないので詳しくは書けませんが。そしてホテルに戻っても寸暇を惜しんで語学研修。夕食は留学先で戸惑わないようにと市内のフランス料理店「カフェ・ド・エルミタージュ」でテーブルマナー教室が行われ、美味しい料理に舌鼓を打った後もホテルに戻ってからまた語学研修。中には大粒の涙を流しながら必死で研修を受けていました。

3月26日(日)朝から冷たい雨が降り続いていました。朝食後早速最後の追い込みの語学研修。そ

して留学先でご披露出来るようにIBS相手に折り紙教室、これは効果的でIBSを魅了していたようでした。最後に出発に向けた決意表明で終了、その頃には初日に見せた自信なさげなで下を向きがちだった派遣学生たちは相手の目を見ながら話せるようになったように見えました。そしてその後、各自帰路につきました。



中央分区 盲導犬育成支援プロジェクト 2月17日・3月25日



—郡山市、福島市で視覚障害者と盲導犬についての啓蒙活動に貢献—

福島グローバル RC

幹事 鈴木 美恵子

中央分区では、2回にわたり「盲導犬育成支援」についてイベントを開催いたしました。第一回目は、2月17日（土）に、中央分区10クラブの主催で、郡山市、ゼノアック（全業工業株式会社）のご厚意で研修室をお借りして実施いたしました。第二回目は、3月25日（土）、県北第1分区、第2分区のご協力を得て、ふくしまコラッセにおいて行われました。

盲導犬は、現在、福島県内に18頭、日本全国では、840頭ほどで、必要としている人は、数年待たなければならないという現状です。また、盲導犬は、ボランティアの方の協力と寄付によって育てられています。このような状況にある視覚障害者と盲導犬について地域の方々に知っていただき、育成の支援ができればと考え、このイベントを企画しました。

イベントでは、日本盲導犬協会、仙台訓練センターから講師、豊田まどかさんとPR盲導犬に来ていただき、視覚障害者と盲導犬についてお話をしていただき、実演によって盲導犬のお仕事について理解しました。

また、原則、お仕事の盲導犬と交流することは控えることになっていますが、盲導犬ユーザーの方がこのイベントに参加していただき、子どもたちも大人の方も盲導犬と、交流したいという方々にその機会を提供していただきました。イベントに参加した方は、盲導犬やユーザーの方とお話をしたり、触らせていただいたりして、和やかな時間を過ごしていただきました。

参加者には、盲導犬の啓蒙グッズ（盲導犬や視覚障害者についてのパンフレット、盲導犬のシール、クリアファイル、キーホルダー、ハンカチ、ワンちゃんクッキーなど）を用意し、参加者や寄付をしてくださった方にプレゼントさせていただきました。

このプロジェクトについては、中央分区のIMの時に、各クラブの活動内容の紹介の中で説明させていただき、主催の郡山RCのご理解のもと、IMの参加者の皆様からご寄付をいただきました。さらに、二回のイベントで集まった10万円以上の寄付は、日本盲導犬協会へ送金いたしました。

郡山と福島でのイベント参加者はもちろん、ラジオ、新聞、ミニコミ誌、テレビなどでこのイベントを取り上げていただいたことにより、多くの方々へ視覚障害者の理解、盲導犬育成の啓蒙活動に貢献することができました。また、ロータリーの奉仕活動についても地域社会の皆様にご理解いただくことができました。

<今回のイベントで学んだこと>

○盲導犬とは？

目の見えない人、見えにくい人が行きたいときに行きたいところへ出かけられるように、盲導犬は、①障害物を教えて避けたり、②段差を教えたり、③曲がり角を教えたり、安全に歩くためのお手伝いをしています。盲導犬は法律で視覚障害者と一緒に電車やバスに乗ったり、お店に入ったりすることが認められています。

○盲導犬育成のためのボランティア

①盲導犬育成のための寄付

盲導犬の活動期間は約8年です。40歳の方が80歳までの40年間には5頭の盲導犬が必要になります。ですから、盲導犬の育成は継続されなければなりません。そして、育成費用の約90%が寄付によって支えられています。

②パピーウォーカーのボランティア

盲導犬候補の子犬を約10か月間、愛情をもって育てていただく。

③引退犬飼育ボランティア

引退した盲導犬を家族の一員として迎えていただく。

④イベントボランティア

募金活動や盲導犬啓蒙イベントをお手伝いいただく。

○皆さんのお声がけが必要な時もあります！

盲導犬は、「スーパードッグ?!」ではありません。盲導犬ユーザーと盲導犬が道に迷ってしまうこともあるそうです。ですから、困っている様子を見かけたら、是非声をかけてくださいね。



第5期 RLI 卒後コース開催報告 4月1日



RLI 委員会
委員長 佐藤 榮 朗

2023年4月1日（土）午前の部9：00～12：20、午後の部13：30～16：50 ユラックス熱海に於いて 第5期 RLI 卒後コースが、対面でのリアルで開催されました。第2530地区ガバナー佐藤正道様、RLI担当相談役・パストガバナー阿久津 肇様、地区研修委員会委員長・パストガバナー石黒秀司様の挨拶を頂きまして始まりました。講評は、地区代表ファシリテーター・パストガバナー平井義郎様より頂きました。オブザーバーとして、パストガバナー大橋廣治様、ガバナーエレクト右近八郎様、ガバナーノミニー早川敬介様、の方々にも参加していただきました。

今回の参加者は、午前の部受講者22名、午後の部受講者19名、役員7名、RLI委員会15名、計63名の参加者で開催されました。

今年度は、前期内でパートⅠ、パートⅡ、パートⅢ、が終了することが出来ました。また今年度は、後期日程で初めて卒後コースを開催することになりました。卒後コースのセッション内容は、セッション1は「ロータリーの歴史」、セッション2は「ロータリーの理念」、セッション3は「ロータリーの新しい流れ」、セッション4は「クラブを元気にしよう」のセッション内容ですが、卒後コースは地区独自の判断で進めていいとのことでしたので、2530地区としてはセッション3「ロータリーの新しい流れ」、セッション4「クラブを元気にしよう」この2つのセッションで進めることにしました。卒後コースは、RLIのパートⅠ、パートⅡ、パートⅢ、を受講して卒業した方でないと参加できません。受講者の皆さんは、RLIに慣れておられる方々ですので、卒後コースのセッション1、セッション2、共に活発な議論がなされ

有意義な時間になったかと思います。RLI（ロータリーリーダーシップ研究会）の理念は、「質の高いRLIの研修を通じてロータリークラブを活性化すること」です。RLIに参加して受講していただければ、ロータリーの知識が深まり、ロータリーが好きになり、ロータリーへのモチベーションを高めてくれます。ロータリーを理解しモチベーションが高くなれば、活動意欲のあるクラブ会員が増え、クラブが活性化し、クラブが元気になり、会員維持、新会員勧誘に繋がる事になります。RLI委員会は、このようなことを目標において活動を進めています。次年度は第6期に入ります。パートⅠ、7月15日（土）・パートⅡ、10月1日（日）・パートⅢ、12月16日（土）、卒後コース、2024年3月9日（土）ユラックス熱海に於いて開催の予定です。多くのロータリアンの皆さんの参加をお待ちしています。



第41回 RYLA研修会開催報告 4月8日・9日



RYLA 委員会

委員長 佐藤 美奈子
(福島RC)

「第41回 RYLA 研修会」は、4月8日(土)～9日(日)、母畑温泉「八幡屋」にて研修生39名、ロータリアン40名が参加して、3年ぶりに対面で開催されました。

今回 RYLA 研修会は「生きる！未来への発信」というテーマを掲げました。東日本大震災、度重なる大地震と台風による被害、さらには新型コロナウイルス感染拡大という困難な時代に、福島に生まれ育った若者たちが、正しい情報を国内外に発信してほしいという思いと困難に直面した際に、過去の経験をもとに正しい判断をして行動し、海外に目を向けながら、未来に希望を持って活躍してほしいという思いから、3名の講師に講演を依頼しました。資源エネルギー庁廃炉・汚染水・処理水対策官の木野正登様は、震災の際、官邸からの電話が胸ポケットでなり続ける中、福島がレベル7の大変な状態にあることを全国に発信したことなど震災にまつわる様々な裏話を披露し、学生時代に原子力について学んだ経験が今の仕事に役に立っていることなどを話されました。福島県民に寄り添い、廃炉に向けて真摯に取り組む姿は聴衆の心をとらえ、研修生はもちろん参加したロータリアンも感動し、木野様案内でF1見学を依頼したいと直接お願いしていた研修生が大勢いました。また、アルプス処理水の海水放出の問題についてもトリチウムの含量が東京ドーム1つにスプーン1杯分程と分かりやすく説明していただき、正しい情報の把握と発信の重要性を説かれ、翌日のコミュタン福島の視察で研修生一同、木野様のお話を再確認することができました。次に、ロータリアンの岡田友子さんは、人は6秒間心を落ち着かせることで、怒りの感情をコントロールすることが可能で、そうすることで、スムーズな人間関係を構築することができ、仕事にも生かすことができる「アンガーマネジメント」についてわかりやすく説明されました。最後にロータリアンの田代行孝さんは海外視察

のエピソードを交えながら、福島や日本の正確な情報を海外に正しく発信することの重要性、その日のうちに報告書を書くことの大切さなどを説明しました。

講演終了後、研修生は5グループに分かれて、「数多くの困難に直面している今、あなたはグループ長としてどのように会社の危機を救いますか」という課題に夜遅くまで熱心に取り組み、翌日発表しました。各グループともに素晴らしい内容でパワーポイント資料を作成し、発表の中で地域の貢献や正しい情報発信の重要性などロータリーの考えに近い対処方法をまとめられ、さらに前日の3名の講話を参考に分析されるなど、会員一同その完成度の高さに感動いたしました。

RYLA 研修生からは、3年間初対面の方とディスカッションをする機会もなかったので今回、世代を超えて学び、懇親も深められ大変有意義な研修だったとの意見を多数頂戴しました。佐藤正道ガバナーは閉会のあいさつで「この研修を修了すると皆さんはライラリアンとして、ロータリーの一員となります。今回参加されている研修生が、次回ライラリアンとして奉仕の現場でも活動できることを楽しみにしています。」と述べられました。

最後に研修会開催にあたり、RYLA 委員会並びに青少年奉仕委員会の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。



いわき平中央RC会員増強の取り組み



いわき平中央
ロータリークラブ
会長 鈴木 一 永

会員増強の取り組みについてでございますが、私が色々ロータリーについて勉強しておりました時、他のクラブと同じことをやるのでは無く、いわき平中央にしかない特色や特徴を持ったクラブ運営が出来ないものかと悩んでおりました所、衛生クラブの存在を知り、これだ！とひらめきました。他には無い特色を持った新しいクラブを作ればいいじゃないかと。そして目標は決まりました。さて中身をどうするか？

私たちロータリークラブのような団体、または企業などもその時代時代に沿うような組織に何度も変化していくべきではないかと思うのです。そしてロータリークラブの従来の慣習に従った硬直性を離れ「開かれたロータリークラブ」を目指し、多様性を重んじて、クラブ会費を最低限に抑え、例会の時間も会員の皆さんの都合にあわせて自由に設定できるようなクラブはどうだろうか。ただし、良い伝統は

守りながら新しいことを取り入れていくことが出来るクラブ。これが出来れば若い年齢層の方々も入会しやすいのではないかと考えました。ただし、最低8名の創立メンバーを集める難題。

8名ものメンバーを集めるには何をすれば？ここで他のクラブが取り組んでいらしたオープン例会の存在を知ります。またこれだ！とひらめきました。ロータリーを知らない一般の方々を多数、ゲストとして招き入れロータリーを知って頂く。

会員の皆様のご協力でこれが大成功に終わりました、衛生クラブ8名、本クラブ2名の計10名の増強が成功したのであります。この良い流れは会員の皆様にも連鎖いたしまして会員増強の意識が強まってきたと感じます。この流れで次年度は40名の会員数で、そして70名目指して取り組んで参ります。



富岡RC会員増強の取り組み



富岡ロータリークラブ
会長 藤田 大

富岡 RC では、本年度スタート時点で38名だった会員が、2023年3月現在で51名となり、13名の会員増となっています。

機会をいただきましたので、私たちの会員増強の取り組みをご紹介します。

昨年5月、2021-22年度会長の西山由美子氏から「地区の会員増強委員をやることになった、富岡 RC でも会員増強を頑張りましょう」というお話と共に、一冊の本をいただきました。

この本は、2840地区で2017-18年度にガバナーを務められた高崎 RC 所属、田中久夫氏の著書「ロータリークラブに入ろう: 幻冬舎刊」というもので、田中氏が会長を務めた年度に50名超の会員増を達成されたノウハウが記されていたので、私たちにもできることを真似してみることにしました。

最も効果があったのは「会員増強会議を月1回開催すること」です。地区の西山会員増強委員、当クラブの会員増強委員、直前会長、会長エレクト、幹

事に参加いただき、ゆるく飲み会をしながら会員増強についてアイディアを出し合いました。

具体的には、会員候補者の氏名・所属・居住地・声かけ担当者・結果や進捗の確認などをフォーマット化したアタックリストを作成し、これを肴に飲むという楽しい会で「あの人にも声をかけたい、そういえばあの人もいるね」と、リストはどんどん埋まっていきました。

また、会員増強会議で作成したリストを例会で共有したり、紹介したい人を紙に書いてもらうような時間を作ることで、会員にも協力をお願いしました。

会員増強は、富岡 RC 会員が一丸となって、楽しみながら取り組んだ結果だと思います。今年度も残りわずかですが、ラストスパートをかけたいと考えています。

「ロータリークラブに入ろう」ぜひご一読ください。



トルコ・シリア大地震支援金の報告(ガバナー会)

Dist	Zone	着金金額	ガバナー	所属RC	地域
2500	1	2,244,783	久木 佐知子	旭川西	北海道東部
2510	1	2,415,246	石丸 修太郎	札幌西	北海道西部
2520	1	2,000,000	天沼 久純	盛岡南	岩手・宮城
2530	1	2,887,000	佐藤 正道	喜多方	福島
2540	1	1,033,000	高崎 恒夫	秋田港	秋田
2550	1	1,400,000	佐貴 直通	宇都宮陽東	栃木
2560	1	2,485,276	高橋 秀樹	新潟	新潟
2580	2	3,420,000	嶋村 文男	東京東江戸川	東京・沖縄
2590	2	3,500,000	志村 雄治	川崎南	神奈川(横浜・川崎)
2600	2	2,235,664	上沢 広光	須坂五岳	長野
2610	2	2,600,000	黒川 伸一	富山南	石川・富山
2620	2	4,000,000	浅原 諒蔵	静岡	静岡・山梨
2630	2	3,558,973	高橋 伸治	岐阜	岐阜・三重
2670	3	5,000,000	八田 光	高松北	愛媛・香川・高知・徳島
2680	3	4,080,000	阪上 栄樹	宝塚	兵庫
2690	3	3,143,718	友末 誠夫	津山	岡山・島根・鳥取
2700	3	4,242,903	西島 英利	小倉南	福岡・長崎・佐賀
2710	3	3,421,213	石川 良興	徳山	広島・山口
2720	3	2,233,994	堀川 貴史	熊本南	熊本・大分
2730	3	1,986,505	山ノ内 文治	鹿児島	鹿児島・宮崎
2740	3	3,247,174	上村 春甫	佐賀	長崎・佐賀
2750	2	6,181,168	富澤 為一	東京品川	東京・北マリアナ諸島他
2760	2	4,963,484	籠橋 美久	名古屋中	愛知
2770	1	4,500,000	細淵 雅邦	浦和	埼玉南東
2790	1	4,500,000	小倉 純夫	松戸	千葉
2800	1	1,684,000	佐藤 孝子	鶴岡	山形
2820	1	2,000,000	大野 治夫	つくば学園	茨城
2830	1	1,640,865	田中 常浩	むつ	青森
2840	1	2,000,000	中野 正美	太田	群馬
		¥88,604,966			

第2530地区では52クラブに御協力いただき、ガバナー会を通して支援金を送金させていただきました。

奉仕の精神で社会的課題の解決、豊かな街づくりに尽くす



株式会社福島中央テレビ
代表取締役社長 **五阿弥宏安 氏**

所属：福島ロータリークラブ

プロフィール

1956年生まれ。早稲田大学政経学部卒業後、78年読売新聞社入社。裁判所クラブや遊軍、厚生省クラブなどを担当。東京本社社会部長、東京本社編集局次長、北海道支社長などを歴任し、2014年福島民友新聞社代表取締役社長を経て、20年福島中央テレビ代表取締役社長に就任。2020-21年度福島ロータリークラブ会長。



身近にある大切なことを丁寧に取り組り下げ伝える

はじめてロータリークラブ（以下、RC）に入会したのが、読売新聞の北海道支社長時代の2011年。それから2014年に福島RCに入会して2020-21年度には、創立70周年という節目の年に会長という大役を仰せつかりました。

70周年の記念事業では、福島ゆかりのモニワ桜の植樹や市内3つの中学校への運動用具の寄贈、県立図書館への図書の寄贈、フィリピンの小学校への学習用具の寄贈、そして国際ロータリーのポリオ根絶大使であるジュディ・オングさんの講演会などを実施しました。

このような取り組み以外に、学業に励みたくとも金銭面で難しい学生たちを支援する奨学金制度など、多岐にわたる社会奉仕の活動を行っています。

こうした活動は一般の方に知っていたただく機会が少ないのが実情で、今後の継続や発展ということを考えて、知っていただくことは必要不可欠なことだと考えています。

しかし、我々マスメディアは、どんな情報でも発信をすればいいというわけではありません。例えば子

ども食堂や奨学金制度のことを発信するのであれば、増えている要因や問題提起、対策、支援の方法など、伝えたいことを丁寧にわかりやすく掘り下げ、広く多くの視聴者に届けることが重要なのです。

循環型社会がふくしまを盛り上げる

当社では「ふくしまを盛り上げるテレビ」とコーポレートスローガンに掲げ、福島が抱える課題を「SDGs」の視点で見つめ直し、課題解決に向けた取り組みに力を入れています。

特に環境課題の取り組みとして、ごみ拾いをしながら歩く番組企画があります。福島県は生活系のごみ排出量が都道府県※1ワースト2位。番組や海洋ごみの清掃活動などのイベントを通して県民の「ごみ」に対する問題意識向上を図り、ごみを捨てない・拾うといった啓蒙活動を推進しています。社内では社員食堂で出る廃棄物を堆肥にしています。その堆肥を使って野菜を育て、それを社員食堂の材料として使うことで、我々人類に必要な「食」に関する循環を実践しています。

その他にも子ども食堂を運営されている方を講師に、現状や子ど

もの貧困の問題について社内でも勉強会も行っています。

我々がSDGsの理解を深め、その大切さをテレビ番組のなかで伝えていく。それが当社の得意とする手法であり、広く周知していく使命だと思っており取り組んでいます。

再発見する 爽り、風土、自然の豊かさを

福島は3つの顔があると思っています。まず場所を表す「福島」、震災後急速に広がった「フクシマ」、そして芳醇な土地を意味する「ふくしま」。まだ震災のダメージは残っているものの、だんだん「ふくしま」が広がってきていると感じています。

おいしい果物や食べ物、豊かな自然、心も体も癒してくれる温泉など、ふくしまにはいいものがたくさんあります。私も週末になると大好きな温泉にでかけますが、心も体も癒やされます。しかし地元の人たちは身近にありすぎるために、その魅力や豊かさに気づいていない。これだけ好材料、好条件が揃っているのだから、あとはどう生かしていくか。それがこれからの「ふくしま」をつくる大切なことだと思っています。

インタビュー ● 相良 元章 国際ロータリー第2530地区
2021-22年度公共イメージ・IT委員会委員長、2022-23年度福島ロータリークラブ会長

本記事は、福島県内のロータリークラブとマスコミ各社の関係をより深め、地域活動への理解を深めることを目的として発行された2021-22年度「トップリーダーインタビュー」冊子からの抜粋です。

県民とつながる番組づくりで 福島の魅力を再発見

KFB 福島放送

株式会社福島放送

顧問 横山 宏氏
(前代表取締役社長)

所属：郡山東ロータリークラブ

プロフィール

1955年生まれ。立教大学法学部卒業後、78年朝日新聞社入社。社会部記者、財務本部長、名古屋本社代表などを歴任し、2017年に福島放送代表取締役社長を経て、2022年顧問に就任。



Rotary Club
RC
MC×RC
Mass
Communication
トップリーダーインタビュー

敷居は低く。

一般の方を巻き込んだ周知が必要

私は、前任者から引き継ぐ形でロータリークラブ（以下、RC）に入会しました。それまでは会員の知人から話を聞いた程度の知識しかなく、「厳格な組織」という印象でした。入会後は仕事柄お付き合いがあった方々もいらっしやうて、よく声をかけていただいたのでとてもありがたかったです。

RCは奉仕団体と認識されている方は多くいらっしやうと思いますが、奨学生への支援を行っていることはあまり知られてはいないのではないのでしょうか。

近年は親の失業で進学を諦めたリ、コロナ禍により学生もアルバイトができず、学費を稼ぐことができないために退学せざるを得ないなど、困っている方々も大勢います。

また海外からの外国人留学生への支援も大変意義のある活動だと思えます。しかしRCは限られた会員による団体。有意義な活動も取り上げられる機会はあまり多くありません。

会の存在や活動の周知という意味では話題性のある著名人に講演をしていただき、会員以外の方

にも聞いてもらうようなことがあってもいいと思います。その時々、一般の方々に興味を持っていただけるような活動であれば、効果的な周知につながるのではないのでしょうか。

多角化するニーズに合わせた番組づくりに励む

現在、我々の業界ではテレビ離れが深刻な問題となっており、特に若い世代はテレビよりもスマートフォンでユーチューブやネットフリックスなどの動画配信を観るようになっていきます。今後は基幹事業であるテレビ放送を続けながら、SNSやスマートフォンを活用するコンテンツなどの発信も組み合わせていかなければならないと考えています。

当社のテレビ放送がはじまったのは40年前。当時、県民200万人にテレビに出演してもらおうという夢を掲げました。この目標はいまでも十分に意味のあることだと思っています。

昨年から「シェアー」という帯番組がスタートしました。コーナーのなかで県内全市町村の方に「県民レポーター」になっていた

だき、自分が暮らす街のPRをしていただいています。この企画は

これまでの一方通行の情報発信を変え、県民参加型という意味も込められています。

今後、ますます多様化が予測されますが、我々は、テレビマンとして県民とつながる番組づくりに励んでいきたいと思えます。

地元民でも気づかない魅力に磨きをかける

いま、日本が抱えている問題として急速な人口減少が挙げられます。特に福島は自然減のほかに原発事故による社会減もあり、他県と比べても減少数が顕著です。その上、コロナ禍での出生率の低下も加わり、近い将来、就学児の減少に伴う学級数、学校の維持まで困難な事態になってしまいます。さらに県外への若者流出が増加すれば、地域の衰退へとつながっていく恐れがあります。

今後、我々ができることのひとつとして、福島の魅力を再発信することだと思えます。身近にありすぎて見失われている地域の魅力をブラッシュアップしていくことで、地元民はそのよさを再確認し、県外の人はその魅力に引き寄せられる。それが福島をより魅力的で活気ある街へと変えていくと思っています。

新会員紹介

●中央区分 郡山 RC
八角 洋 やすみ よう
 ●入会日 2023年3月9日
 ●職業分類 高度管理医療機器販売
 ●勤務先 サンセイ医機株式会社

●中央区分 郡山 RC
吉田 哲幸 よしだ てつゆき
 ●入会日 2023年3月9日
 ●職業分類 不動産仲介
 ●勤務先 ランド・ジャパン有株式会社

●県北第一区分 福島南 RC
安永 真悟 やすなが しんご
 ●入会日 2023年3月15日
 ●職業分類 水処理業
 ●勤務先 (株)ダイキアクセス 郡山営業所

●県北第一区分 二本松あだたら RC
坂路 和美 さかじ かずみ
 ●入会日 2023年3月23日
 ●職業分類 旅館業
 ●勤務先 (株)東館 陽日の郷あづま館

●県北第一区分 二本松あだたら RC
丹野 芳富 たんの よしとみ
 ●入会日 2023年3月23日
 ●職業分類 飲食業
 ●勤務先 (有)鯨富

●いわき区分 いわき平 RC
佐藤 尚誠 さとう なおしげ
 ●入会日 2023年2月9日
 ●職業分類 住宅建設
 ●勤務先 積水ハウス (株)

●いわき区分 いわき平東 RC
羅 麗 ろ りい
 ●入会日 2023年3月8日
 ●職業分類 飲食店
 ●勤務先 星空

●県南区分 白河西 RC
長 克則 ちょう かつり
 ●入会日 2023年3月2日
 ●職業分類 建築板金
 ●勤務先 (株)長板金

●相双区分 富岡 RC
大國 博司 おおくに ひろし
 ●入会日 2023年3月1日
 ●職業分類 倉庫業
 ●勤務先 南双サービス (株)

●相双区分 相馬 RC
安齋 将 あんざい まさる
 ●入会日 2023年3月28日
 ●職業分類 新聞発行
 ●勤務先 福島民報社

物故会員 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

●福島中央 RC
長谷川好美 はせがわ よしみ
 2023年3月17日 ご逝去
 享年 76歳
 ローターリー歴 32年

●福島中央 RC
今井 明 いまい あきら
 2023年3月30日 ご逝去
 享年 69歳
 ローターリー歴 28年

●いわき小名浜 RC
作山 榮 さくやま さかえ
 2023年3月15日 ご逝去
 享年 93歳
 ローターリー歴 56年



3月会員数報告と My ROTARY 登録率・生年月日登録率

※4月18日現在

分 区	クラブ	7/1現在会員数 (内女性)	前月未会員数 (内女性)	1日付け入会者数 (内女性)	2日～月末入会者数 (内女性)	当月退会者数 (内女性)	当月未会員数 (内女性)	例会 回数	My ROTARY 登録率※	生年月日 登録率※
中央 分 区	郡 山	97 (0)	102 (0)	0 (0)	2 (0)	5 (0)	99 (0)	4	28.28 %	37.37 %
	郡山西	40 (0)	41 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	39 (0)	4	70.00 %	20.51 %
	郡山東	31 (2)	31 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	30 (2)	2	90.00 %	63.33 %
	郡山南	90 (13)	88 (13)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	88 (13)	4	75.00 %	100.00 %
	郡山北	39 (0)	41 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	40 (1)	4	55.00 %	22.50 %
	郡山西北	42 (2)	43 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	43 (2)	4	27.91 %	13.95 %
	郡山安積	56 (3)	53 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	52 (1)	3	22.64 %	25.00 %
	郡山アーバン	29 (14)	29 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	29 (14)	3	72.41 %	34.48 %
	郡山コスモス	17 (2)	17 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (2)	2	100.00 %	64.71 %
福島グローバル	17 (2)	16 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (2)	2	68.75 %	93.75 %	
中央分区分区小計		458 (38)	461 (38)	0 (0)	2 (0)	10 (1)	453 (37)	32	61.00 %	47.56 %
県 北 第 一 分 区	福 島	95 (7)	99 (6)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	100 (7)	3	98.99 %	100.00 %
	二本松	39 (4)	40 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	40 (4)	3	75.00 %	97.50 %
	福島南	65 (6)	67 (7)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	66 (7)	3	75.76 %	100.00 %
	福島西	24 (1)	25 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	24 (2)	3	80.00 %	100.00 %
	福島中央	47 (3)	48 (4)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	46 (4)	4	93.48 %	100.00 %
	二本松あだたら	35 (5)	35 (5)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	37 (5)	4	97.30 %	100.00 %
	福島21	41 (4)	42 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	42 (4)	4	88.10 %	100.00 %
	県北第一分区分区小計		346 (30)	356 (32)	0 (0)	5 (1)	6 (0)	355 (33)	24	86.95 %
会 津 分 区	会津若松	51 (0)	51 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (0)	45 (0)	4	39.22 %	95.56 %
	喜多方	43 (0)	48 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	48 (2)	3	85.42 %	100.00 %
	会津若松西	25 (1)	25 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	23 (2)	4	73.91 %	95.65 %
	猪苗代	27 (4)	26 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	26 (4)	3	80.77 %	88.46 %
	会津坂下	33 (0)	34 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	34 (0)	5	64.71 %	23.53 %
	田 島	34 (0)	36 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	35 (0)	3	63.89 %	77.78 %
	会津若松南	14 (1)	19 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (1)	4	31.58 %	100.00 %
	会津若松城南	24 (0)	24 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (0)	3	50.00 %	100.00 %
	喜多方中央	30 (1)	30 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	30 (1)	5	100.00 %	100.00 %
	会津若松中央	19 (6)	21 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	21 (6)	4	85.71 %	100.00 %
会津分区分区小計		300 (13)	314 (16)	0 (0)	0 (0)	9 (0)	305 (16)	38	67.52 %	88.10 %
い わ き 分 区	いわき平	49 (0)	51 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	49 (0)	5	28.00 %	100.00 %
	いわき小名浜	71 (0)	71 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	70 (0)	3	18.57 %	98.57 %
	いわき勿来	36 (0)	36 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	35 (0)	4	37.14 %	97.14 %
	いわき内郷	25 (3)	21 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	21 (3)	3	23.81 %	57.14 %
	いわき常磐	15 (0)	15 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (0)	3	46.67 %	33.33 %
	いわき平東	38 (3)	45 (4)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	46 (5)	3	76.09 %	89.13 %
	いわき四倉	2 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0	50.00 %	100.00 %
	いわき平中央	28 (4)	26 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	26 (6)	3	32.00 %	92.31 %
	いわき桜	10 (10)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	3	90.00 %	100.00 %
いわき分区分区小計		274 (20)	277 (23)	0 (0)	2 (1)	5 (0)	274 (24)	27	44.70 %	85.29 %
県 北 第 二 分 区	飯 坂	39 (5)	38 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (5)	4	100.00 %	100.00 %
	福島北	50 (1)	51 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	51 (1)	2	100.00 %	100.00 %
	保 原	28 (3)	29 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	29 (3)	4	55.17 %	100.00 %
	福島東	36 (3)	38 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (3)	4	78.95 %	100.00 %
	梁 川	17 (3)	16 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (2)	3	70.59 %	100.00 %
	川 俣	35 (2)	36 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	36 (2)	4	59.46 %	100.00 %
	福島しんたつ	15 (2)	17 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (2)	2	47.06 %	100.00 %
	県北第二分区分区小計		220 (19)	225 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	225 (18)	23	73.03 %
県 南 分 区	白 河	40 (2)	39 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	39 (2)	3	30.77 %	17.95 %
	須賀川	43 (1)	45 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	43 (1)	3	16.28 %	93.02 %
	東白川	12 (0)	11 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	10 (0)	3	45.45 %	100.00 %
	石 川	34 (1)	35 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	34 (1)	5	32.35 %	100.00 %
	矢 吹	11 (1)	11 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (1)	3	27.27 %	45.45 %
	白河西	65 (6)	65 (6)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	66 (6)	5	100.00 %	100.00 %
	須賀川ぼたん	12 (0)	12 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (0)	4	50.00 %	91.67 %
	白河南	15 (0)	14 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (0)	4	14.29 %	0.00 %
	県南分区分区小計		232 (11)	232 (11)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	229 (11)	30	39.55 %
相 双 分 区	原 町	21 (0)	26 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	26 (1)	2	11.54 %	95.83 %
	相 馬	29 (4)	28 (4)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	26 (3)	2	32.00 %	100.00 %
	浪 江	42 (2)	47 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	47 (3)	2	31.91 %	100.00 %
	富 岡	38 (5)	50 (7)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	51 (7)	2	37.25 %	100.00 %
	原町中央	40 (6)	42 (6)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	41 (6)	3	19.51 %	100.00 %
	南相馬	22 (2)	21 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	21 (2)	3	85.71 %	100.00 %
相双分区分区小計		192 (19)	214 (23)	1 (0)	1 (0)	4 (1)	212 (22)	14	36.32 %	99.31 %
県 中 分 区	本 宮	34 (8)	42 (9)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	41 (9)	5	28.57 %	100.00 %
	三 春	23 (2)	22 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	20 (2)	3	80.00 %	95.45 %
	常 葉	25 (0)	24 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (0)	3	50.00 %	100.00 %
	滝 根	2 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	1	66.67 %	100.00 %
	船 引	46 (3)	45 (3)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	44 (3)	4	68.18 %	100.00 %
	小 野	19 (1)	17 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (1)	3	23.53 %	52.94 %
県中分区分区小計		149 (14)	153 (15)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	149 (15)	19	52.83 %	91.40 %
2530地区合計		2,171 (164)	2,232 (176)	1 (0)	11 (2)	42 (2)	2,202 (176)	207	57.74 %	84.98 %

※7/1現在会員数には、7/1入会者7名を含んでいます。



県南分区ガバナー補佐

郡部仁喜
(須賀川ぼたんRC)

3月26日(土)13時30分より「県南分区IM」が、県南8クラブ会員の参加を得て、須賀川ぼたんRCをホストクラブとして開催されました。

午前中「新会員セミナー」には県南分区パストガバナー補佐藤田卓氏を講師と迎え「ロータリー入門・基本と変遷」と題して行っていただきました。長きにわたる経験とそれに伴う奥深いお話をいただき、新会員の皆様にはこれからのロータリー活動の励みになったことと思います。

IM開会式の後、第1部では、佐藤正道ガバナーから要望の「クラブ活性化」についての協議。各クラブ会長より「クラブ活性化を志す各会長の思い」と題しての活動報告

を頂き、佐藤正道ガバナーよりの総評を頂きました。続けて次年度佐藤靖一ガバナー補佐予定者紹介、次年度IMホストクラブ会長挨拶と続き、ガバナーの閉会点鐘で閉会となりました。

第2部は、元日本弁護士連合会会長の荒中(あらただし)弁護士をお迎えして「子供(障がいのある子を含む)の法的支援と支える人々の危機管理」と題しての記念講演会を開催いたしました。

第3部の懇親会では、味戸分区幹事進行役で空くじの無い「お楽しみ抽選会」を開催し、楽しく賑やかに親睦を深めました。参加いただいた県南分区ロータリアンの皆様に感謝申し上げます、IMの報告といたします。



職業奉仕委員会



人類の生存と
「利己と利他の調和」

委員 福西 宜孝
(会津若松中央RC)

「決議23-34」によると、「ロータリーは、利己と利他の調和を図る人生哲学である。」。私は、「この言葉が深遠なる真理を述べている。」と信じる。「人間は、利己と利他の調和に配慮したからこそ、現在生存できている。」と考えるからである。以下、その根拠を記す。

人間の祖先は、かつて、アフリカの密林で樹上生活をしていた。約700万年前、平地に降りて生活するようになり、直立二本足歩行を始めた。これにより、ヒト(人間)になった。

平地には、猛獣が闊歩し、運動能力も身体能力も劣る人間はその餌食になった。人間は、死に絶えることを防ぐため、毎年子供を産めるように進化した(チンパンジーらは、数年の出産間隔があるとのこと)。さらに、集団生活の中で協力し合うことによって、捕食される被害を少なくし、又、狩猟採集の成果を上げようとした。

集団生活を円滑に営むためには、他人と協調、協力し、周囲の人間と円満な関係を保たなければならない。それに

は、自分の欲望、欲求を抑え、「利己と利他の調和」を図らなければならない。人間は、「利己と利他の調和」の精神を身につけることにより集団生活を円滑に営み、それによって生き延びることが可能となった。なお、人間に白目があるのは、相手の気持ちを読み取りやすくするためだといわれる(チンパンジーには白目が無い)。

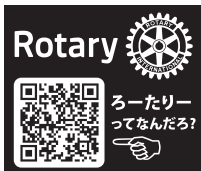
これに対し、人間が生き残ったのは、「脳が巨大化して、知能が他の動物よりも発達したからではないか？」との疑問がわく。しかし、「脳が巨大化したのは、今から約200万年位前からだ。」と言われている。脳は、体の約2パーセントの容積しかないのに、約20%のエネルギーを消費する。そこで、十分な栄養を採れるようになってから脳が発達しないと、栄養不足となり、生きていけないとのこと。おそろく約200万年前以前は、栄養豊かな食べ物で十分には摂取できなかったのではないかと。

ただ、脳の巨大化が始まる前も、知能の発達はある得た。それは、集団生活をする中で、他人との人間関係を結ぶことにより発達したという。例えば、集団生活を維持するためには、構成員の性格を知り、相互の意思疎通を図ること(言葉は生まれていないが)が必要になる。そのため、人間関係を築く必要上、脳の巨大化を待たずに「社会脳」として脳は進化した。この脳の発達も、集団生活が円滑に行われたことによるのであり、やはり、「利己と利他の調和」の精神が役立っているといえよう。

(参考書：山極寿一もと京都大学総長の諸著作等)。

● 公共イメージIT委員会からのお願い ●

友人や知人の方にロータリーを紹介しましょう♪
スマホのカメラでQRコードを読み取ってください



一般向けサイト



Facebookページ

今月の表紙紹介

写真提供：
(一社)喜多方観光物産協会



喜多方市熱塩加納町三ノ倉高原花畑は標高650mに位置し、東京ドーム2個分程の広さです。5月は約350万本の菜の花が咲き誇ります。
三ノ倉高原菜の花フェスタ：
5月15日～5月28日開催